

講演録

中野武営を通して郷土を学ぶ

佐 賀 香 織

講演要旨

本講演録は「かがわ教育の日」のつどい協賛事業、令和六年度教育文化講演会の内容である。
経済史経営史を中心とした実業家の業績を中心とした人物紹介程度の先行研究に対し、政治家としての側面を掘り下げた新しい人物像の描き方について、人物研究を通じた郷土に関する学び、これからの郷土教育についての希望や小中学生に向けたメッセージを伝えている。

本日は講演の機会を賜り御礼申し上げます。子どもの人間形成期に深くかかわる小中学校の校長先生や教頭先生の前でお話させていただくということで、大変緊張しております。

私は、幼稚園から高校卒業まで高松で過ごしました。私自身の人間形成期は高松です。ですから「讃岐っ子」を自負しております。讃岐で育った私が、郷土の先人である中野武営を大学の卒業論文のテーマに設定したところから本日はお話をさせていただきます。

1. 中野研究のきっかけ

研究を始めた当初は、中野武営については全く知りませんでした。小中学校の郷土教育において習ったかしら？と記憶を遡っても記憶がありませんでした。そのため、大学4年の夏休みに帰省して、高松市立図書館および香川県立図書館で関連する図書を探しても見当たらず、途方にくれたことを覚えております。レファレンスカウンターで尋ねても「誰ですか？」という回答で、評伝『中野武営の七十年』もデータ上は書庫にあるが、本当にあるかわからないという状態でした。このように高松でもすっかり忘れられていた人物でした。市立図書館の書庫から出していただいた評伝を数日かけて読み、中野の業績を確認いたしました。読みながら、現在の日本という国のありかたに大きな影響を与えた人物であることを確認いたしました。歴史の中に埋もれて忘れられている状態から、自分で資料を発掘して人物像を明らかにしなければいけないという大変な研究に取り組んでしまったという思いと、誰も本格的に研究していない中野という人物像を明らかにできるというワクワクする思いが交錯して胸が高鳴ったことを覚えています。それ以後、帰省中は連日図書館に通い、まずは『香川県史』や『高松市史』などの資料を片っ端から読み始め、郷土史のなかに中野の痕跡を探しはじめました。簡単にみつかる訳もなく、大学卒業後は大学院に進学し、東京の古書市で評伝『中野武営の七十年』を入手いたしました。まず取りかかっ

たのは、評伝の内容の裏付けをとる作業です。この本も何を参考に評伝が書かれているのかわからず、苦戦をしいられました。修士課程1年の夏休みにも帰省し、高松市立図書館に通い詰めておりましたところ、今の『四国新聞』の前身である『香川新報』がマイクロフィルムとして保管されていることに気づきました。図書館のマイクロフィルムリストを確認したところ、創刊第1号から確認することができましたので、中野の生涯を新聞の記録から追うことが可能になり、一気に研究の風穴が開きました。そこからは帰省中にすべてのマイクロフィルムを確認しようと、「中野武営」というキーワードが出ているものはすべてプリントする作業に没入することになりました。連日、お昼休憩を40分程度挟みながら、かなりのスピードでマイクロフィルムを見ておりました。そのような毎日をすごしていたある日、「あなたは毎日マイクロフィルムをみているけれど、いったい何を見ているの？」と声をかけてくださったご高齢の方がいらっしゃいました。私は「中野武営という人物を調査していて、中野が創刊にかかわった『香川新報』のマイクロフィルムを見ています」と答えました。その方は「中野武営について研究する方が出てきてよかった。しかし、資料がないので大変だろうけど、重要な人物なので頑張ってください。」と更に声をかけていただきました。すでに簡単にみつかると思っていた資料が見当たらないことで研究の意義を見失いかけておりましたが、郷土史の観点からも重要な人物だということを教えていただいたことに研究を続ける意義があるのだ、私自身が中野武営に関する資料を発見できていないだけなのだと思ったことを覚えております。

後日、この話を高松の郷土史に詳しい知人にしましたところ、声をかけてきたのは市原輝士さんという郷土史家だろうということを教えていただきました。残念ながら、その後数か月でお亡くなりになったということでした。

私の中野研究に話を戻しますと、中野に関する研究は、『中野武営翁の七十年』という評伝1冊を手掛かりにして資料を発掘することから始まりました。今からしてみると、資料の調べ方をわかっていなかったのですが、自ら資料を発掘するという小さな成果の積み重ねという経験の集積によって、少しずつ中野の人物像が浮き上がっていきました。『中野武営の七十年』という評伝を本が壊れるほど読み返し、「政治家」として、「実業家」として何を成し遂げたかった人なのかということに思いを巡らせるようになりました。そして、明治の頃から政治家は地元利益誘導を行うが、評伝にはそのような内容がないため、郷土に対してどのような貢献をした人物なのか探し続けました。大学図書館にも連日通い詰め、政治史、経済史、経営史など横断的に探し続けました。そうしますと、評伝でも大きく取り上げられている「商業会議所会頭」と「株式取引所理事長」を中野は重複しながら13年ずつ努めていたこともあり、経済史や経営史の中で経済人としての評価を少しずつ見つけることができました。しかし、実業家としての中野の評価は、渋沢栄一というスターを支えた黒子のような人物としての評価でありました。では「政治家」としてどのような人物だったのだろうか、こちらを明らかにすることで中野の人物像が明らかになると考えました。修士課程2年の夏休みに帰省した際、実家に残っておりました。小学生の時の副読本『高松の今とむかし』を何気なく読み返しておりましたら、明治時代の第1回帝国

議会議員選挙のページに香川県第一区当選者として、中野武宮の名前があることに気づきました。しかし、記憶をたどっても授業のなかで中野について触れられておりません。日本で初めての帝国議会選挙については、選挙がはじまったというくらいの記憶でしかありません。小学生当時は瀬戸大橋の建設が実現しそうということもあり、大久保謙之丞について説明されたことを思い出しました。しかし、ここに中野研究の本質を見出すチャンスがあるのではないかということに気づいたわけです。

2. 政治家としての中野武宮について

そこで、次は政治家としての業績を調べようと『帝国議会集議院議事速記録』を読み始めました。今は国会図書館のホームページからデジタル処理された議事録を読むことが出来ますが、当時は製本された大判の帝国議会衆議院議事速記録を読み進め、中野が発言している部分をコピーしました。

1. どのような人物か想像してみましょう

・政治家

悪いことをしていそう

リーダーシップがある？

・実業家

お金持ち



蓄財の知識がありそう



政治家としても実業家としても何をしたのか、やりたかったのかをつかめなかった私も、大学で講義を担当しはじめた当初、自分の研究を受講生に紹介しました。その時の感想が上記スライドの言葉です。学生が政治家＝悪、実業家＝金持ちという非常に単純なイメージでしかとらえられなかったことに、自分の説明不足と中野の魅力を伝えきれなかったことを反省しました。そこからは、中野の魅力を理解してもらうことに視点を变えて研究をすすめるようになりました。ただただ中野の業績を追いかけるだけではなく、また、現在の私の視点から中野を見るのではなく、明治・大正という時代を生きた中野の視点から世の中を見渡すこと、そしてどのような政治が行なわれていたのか、当時の経済社会はどのような状況だったのかということに注意深く掘り下げていくことに気を付けるようになりました。明治時代の政治家といえど？という質問に対しては、多くの学生が「伊藤博文」と答えたこともあり、政治家としてのリーダーシップについても考えるようになりました。そして中野に伊藤のようなリーダーシップはあったのだろうかとも考えるようになりました。

政治家 藩閥/元老・元勳

「リーダーシップがある」



時局・・・ぶれない姿勢

政局・・・決断力・豪胆さ

西欧＝ドイツ イギリス アメリカ

組織＝制度が国家を作る

States(藩)を廃し1つのNation

(国家)を形成＝国民国家形成



先ほどの学生の感想にあった、実業家＝お金持ちというイメージについて、ではお金持ちとはどのような人たちですか？と質問したところ、実業家＝起業家、実業家＝社長ということでした。当時のお金持ちには大地主や高級官僚などの存在もあり、企業や商店の社長だけではないことを説明しました。公務員は安定しているし、民間企業の給料と比較しても確かに現在もお金持ちだと学生は自分の進路についても真剣に考えるほど盛りました。

中野は政治家になる前は農商務省の奏任官という役職をもって官吏の職を辞しています。奏任官は高級官吏に該当します（表1）。しかし、中野は中央官吏としての昇級では堅実に一步一步確実にあがっていくタイプでした。地租改正事務局員として地方と中央を行ったり来たりしながら、実直にそして確実に仕事をこなしていくまじめな性格と、ぶれない一本気な性格の持ち主であったため、地租改正事務局の上司であった松方正義や農商務省における直属の上司であった河野敏鎌にその仕事ぶりを高く評価されました。しかし、中野の昇級は奏任官七等で止まってしまったようでそれ以上出世した記録は残っておりません。いわば、中野にとってそれは出世の限界でした。

官の種類	等級	(位階)	月給	太政官正院	元老院	省	一等寮	二等寮	三等寮	一等司	二等司	府	県	監視庁	陸海軍	その他
勅任官	1等	(一位)	800円	太政大臣	議長・副議長	卿									大将	大審院一等判事
		(二位)	600円	左右大臣・参議	議員										中将	特命全權公使
		(三位)	500円												少将	司法省大検事
奏任官	2等	(四位)	400円	大内史	大書記官	大輔	頭	頭				知事	令	大警視	大佐	(総領事)
	3等	(正五位)	350円	大外史	大書記官	少輔	助	助	頭			参事	権令	中警視	中佐	(領事)
	4等	(從五位)	250円	権大内史・大外史	大書記官	大丞	権頭	頭				権知事	令	権大警視	大佐	(総領事)
	5等	(正六位)	200円	権大外史・少内史	大書記官	少丞	助	助	頭			参事	権令	中警視	中佐	(領事)
	6等	(從六位)	150円	権少内史・少外史	大書記官		権助	助	権頭	正		権参事	参事	権中警視	少佐	
	7等	(正七位)	100円	権少外史	大書記官		権助	助	権頭	正	正	権参事	参事	権中警視	少佐	
	8等		70円	大主記	大書記生	大録	大属、大技師			大令史		典事→大属		権少警視	中尉	
判任官	9等		50円	権大主記	大書記生	権大録	権大属、中技師			権大令史		権典事→権大属		大警部	少尉	
	10等		40円	中主記	少書記生	中録	中属、少技師			中令史		大属→中属		権大警部	少尉補	
	11等		30円	権中主記	権少書記生	権中録	権中属、大技手、大手			権中令史		権大属→権中属		中警部	(曹長)	
	12等		25円	少主記		少録	少属、中技手、中手			小令史		少属		権中警部	(軍曹)	
	13等		20円	権少主記		権少録	権少属、少技手、少手			権小令史		権少属		少警部	(伍長)	
	14等		15円	大舎人		筆生	史生、大技生、技術心得					史生		権少警部		
	15等		12円			省掌	寮掌、中技生、技術見習					府掌	県掌	警部補		
	1等		10円				使部							一等巡查		
等外	2等		8円				直丁							二等巡查		
	3等		7円				門番							三等巡查		
	4等		6円				小舎人									

「明治初年の職官表 明治10年1月改定」 <https://coin-walk.site/J069.htm#E062024年5月25日閲覧>

7

表1 「明治初年の職官表 明治10年1月改定」『官員録』、<https://coin-walk.site/J069.htm#E06> 参照

中野が農商務省で担当していた職務は、河野の秘書官の一人でした。明治14年の政変で河野が下野した際、人脈を築きつつあった中野は共に辞職します。在野での活躍の道筋が見えたこともあり出世の限界からの解放とともに、二度と官吏の世界には戻りませんでした。更に河野が関係していた結党直前の立憲改進黨の集会などに河野と共に参加するなど、官吏時代とは全く異なる人脈を形成していきました。

河野は政党の仕事だけでなく、中野に能・謡を教えたことでも大きな影響をあたえた人物です。土佐藩出身の河野にとって能は藩主山内家が熱心に行っていたこともあり、身近な存在でした。將軍家と近い関係にあった高松藩松平家では、能は江戸詰めの際に將軍と共に舞うものの、奢侈につながるものとして高松では奨励してきませんでした。河野の娘の結婚式で披露された高砂という仕舞を見た中野は大いに感動し、さっそく謡の稽古を開始することを決め、時間を見つけて健康法の一つとして毎日謡の練習を重ねるようになりました。自分の息子たちにも謡をはじめ笛や太鼓の稽古をつけ、家族で能を演じられるほどにまでなりました。

中野の父親は、高松藩の地元における最後の勘定奉行でありましたが、藩主に対しても節約の必要性を説いた人物として中野の評伝の中で描かれています。趣味として茶道を好んだ人物でしたが、茶碗などの道具の収集を行うことは奢侈につながると、藩主のみならず下記のスライドにあるように自身の家庭内においても徹底した儉約ぶりでした。

評伝の記述を参考に中野の業績を確認したところ、高松藩へ武官としての出仕を振り出しに、維新後に設置された高松県では文官に転身しての出仕を確認できました。武官としては鳥羽伏見の戦いにも参戦し奮闘したとのことです。また、父親と共に京都勤務を命じられた際、公用方として他の藩との外交折衝を担当していたようです。この頃から武官としてだけではなく、父親の文官としての務め方や藩財政について、父親と共に働きながら学んでいったとみております。武官としての中野は、高島式という高島秋帆のイギリス式の砲術を高松藩に導入する担当を務めました。新しい技術への理解と積極的に導入することをすすめていることから、時勢に遅れまいとする中野の姿勢を感じることができます。中野親子の高松藩への忠誠心は非常に厚く、中野は政治家として実業家として成功すると、藩主松平家の相談役となり松平家の家政にも影響を与えました。

表2は1895（明治28）年の香川県実業会高松支部会が発行した実業家の一覧です。中野は当

お金持ちってどんな人たちの？

どんな職業なの？



豪農・豪商・大地主・
工業（酒造業・蚕糸業など）・
実業家・高級官僚（奏任官）以上

儉約はしなくてはならぬ。
物は妄りに消費するな



高松藩への出仕

藩吏「武士」として鍛錬

鳥羽・伏見の戦い…「将として奮闘力戦」
(1868年) 実践経験の乏しい

父親の京都参勤 公用方「政体書」交付後か？

東京警護の士官 深川区担当(1869年)

高松で兵事職(1870年) 英国兵法研究

①佐幕論 ②彦根派佐幕論

③水戸派尊王論 ④長州派尊王論

松平家への忠誠 中野家二代にわたる

時の有志者の筆頭として名前があがる人物であったことが、この記録からわかります。しかも当時の中野の家は生家ではなく、四番丁にあったことがわかります。

香川縣實業會高松支	伊勢平吉	芳澤太郎	熊吉	義三郎	梅次郎	秋次郎	徳次郎	彌次郎	茂次郎	政次郎	利次郎
	全南新町	全九尾町	通屋町	南田町	野方町	四番丁	有志者	東濱村	北古馬場町	北濱村	魚屋町
	鈴木光三郎	赤河権五郎	徳田泰造	中田富三郎	田中定吉	中野武吉	有志者	高松商業銀行	高松木材株式會社	高松電燈株式會社	高松電燈株式會社
	新港町	全通町	百間町	丸龜町	兵庫町	南新町	北新町	西通町	南新町	西新町	西新町

表2 「高松市実業家案内」『高松市明細全圖一八九五年』裏面、
国際日本文化研究センター所蔵地図データベース。

では、中野は1895年当時、何をやっていたのかということですが、香川県第一区選出の帝国議会衆議院議員でした。地元の活動として数多くの政談演説会を行っていたことが『香川新報』の記事からわかります。演説会の場所は、汽船の待合室や寺の講堂、元田城のすぐ近くにあった三々倶楽部内、高松商業学校の講堂など、とにかく様々な場所で講演を行っています。

政談演説会のみならず、実業家としての経済状況を中心とした経済談が中心の講演会など東京での活動報告ともいえる中野の講演会は盛況だったようです。また、日清・日露戦後には戦後経営談の記録が多く残っています。人々が注目していた経済界の戦後経営方針について、地元高松の人々に対して政治、経済が求めている人、モノ、技術について詳細に語っています。

図1の左下方は高松城跡になります。地図を確認しますと、城の跡は連合共進会場となっています。この連合共進会というのは、全国各地で開催されたその地域の産業を紹介し、産物や製品を紹介する、今でいう品評会のような催しだったと考えられます。明治10年代から始った共進会は、殖産興業政策の一環として、各地で開催されていました。共進会に中野が関わっていたのかどうかは、私の調査不足でまだ不明です。ここにも中野研究の課題が残っています。

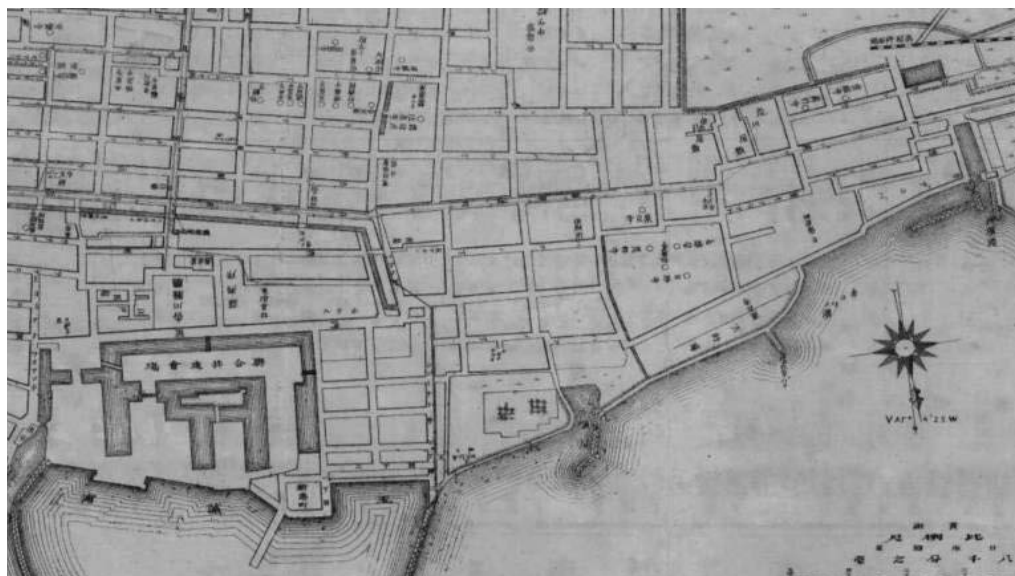
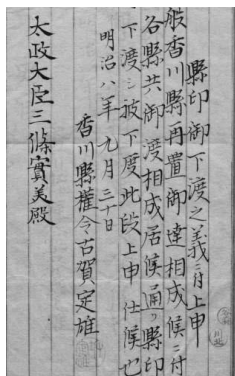


図1 「高松市街明細全圖一八九五年」国際日本文化研究センター所蔵地図データベース。

中野は明治14(1881)の政変で河野や上官の牟田口元学(佐賀県出身・元農商務省大書記官、下野後は東京馬車鉄道社長)ら共に下野し、大隈重信が率いていた立憲改進黨に参加しました。以後、政界では大隈一派とみなされるようになっていきました。当時の薩長藩閥政府において、大隈一派はまさに目の上のたんこぶのような存在になっていきました。政党人へ転身した中野は地元高松に帰り、立憲改進黨の勢力拡大に努めます。その一環として、愛媛県に吸収合併されていた香川を再び独立させるために動き始めたのです。

早速、欠員補充のための愛媛県会議員選挙に出馬、当選を果たします。中野は愛媛県吏として愛媛と内務省地租改正事務局を往復しながら、難航していた石鉄県の地租改正を担当した経験があります。単なる吸収された香川県出身で、中央政府において活躍した経歴の持ち主というわけではありませんでした。維新时期から抱えていた愛媛県の問題点や、塩業を中心とした瀬戸内海地域の産業発展に対する中野自身の解決策を提言するなど、その実現のために尽力する覚悟をもった愛媛県会入りだったのです。



(2) 塩田問題の解決 十州塩田組合会からの脱会

↓
香川県分県独立運動へ
官吏としては七等出仕(奏任官)

◇出世の限界

◇大隈一派

政府＝薩長藩閥

第1期 1882～1883年

予讃分離請願有志集会

明治以降、瀬戸内西部五州（安芸、周防、長門、備後、伊予）では塩浜の枯渇が厳しくなったため、東部五州（播磨、備前、備中、阿波、讃岐）では限月製塩が実施されていました。1884（明治17）年、塩の一大生産地であった瀬戸内海地域十州の製塩業者は、塩業統制を行う十州塩田組合会を創立しました。西部の伊予・愛媛県では、十州塩田組合会に関する規則を県布達（愛媛県布達甲第一一三号）として発し、製塩業者は原則として組合会へ参加しなければならないとしました。愛媛県は東部・讃岐地域を含んでおりましたため、讃岐・元香川県の人々は塩浜が枯渇していないにも関わらず、塩業を制限しなければなりませんでした。そのため、讃岐の製塩業者たちの不満は膨れ上がっていました。1887年には讃岐の中でも東部に位置した高松の製塩業者が中心となって、十州塩田組合に関する愛媛県布達を遵守することは、十州全体の製塩業者に不利になるとして、十州塩田組合会を解散して全国同業者と連合一致すべきであるという建議を行ったのです。しかし、愛媛県の十州塩田組合会本部長の石崎保一郎（伊予国温泉郡出身）は、東讃支部長井上甚太郎外40名を相手取り松山始審裁判所高松市庁に採塩停止の訴訟を起こし、本案の審理に先立ち採塩停止の命令書下付請求を行いました。高松市庁はこれを受理し、採塩停止命令書を下付するなど、迅速な対応をとりました。中野は、県会の通常審議に先立ち、瀬戸内海沿岸十州塩田組合紛議事件に関する建議の趣旨説明を行い、愛媛県布達甲第一一三号達取消を内務大臣に建議することは、県下焦眉の急務であると訴えた。愛媛県会は圧倒的多数で中野の提案に同意し、中野が起草した「十州塩田組合会に関する布達廃止の建議」を採択しました。愛媛県会の建議に押され、愛媛県知事の藤村紫郎も農商務省へ十州塩田組合会紛議事件に関する意見書を提出しました。

旧高松藩領である東讃地域は、気候に恵まれるなど十州のなかでもとりわけ安定した高い塩の生産量を誇っていました。山口県を中心とした塩価安定を図るための規制強化を主眼とした十州塩田組合会からの脱会や、愛媛県布達甲第一一三号のような建議は、どちらも自由闊達な経済活動につながりそして地方産業が活性化し、ひいては国家経済の発展に有益であると中野は力説しました。

十州の製塩業者の利益の保護をうたいながらも、山口県の製塩業者の保護が中心となっていた

十州塩田組合会の規則にしたがうことは、高松藩政時代から製塩、大阪市場における販売政策にかかわっていた東讃製塩業者達や、中央政府で地租改正や農商務省での勤務経験がある中野にとって納得のいかないものでした。

政府は、1887年5月23日勅令第一五号「外国ニ輸出スル食塩ハ明治二十年七月一日ヨリ海関税ヲ免除ス 但シ課税ヲ要スルトキハ六箇月前ニ之ヲ公布スベシ」と、すでに塩の関税撤廃・無税輸出許可を認め、海外輸出を奨励していました。

愛媛県知事意見書や県会建議および関係者の請願を受けた政府は、愛媛県知事藤村に対し、十州塩田組合会に関する愛媛県布達の再検討を命じました。藤村は愛媛県布達甲第一一三号中第二号「一、製塩ノ事業ヲ一カ年間六ヵ月ヲ限り猥ニ其制ヲ超ユルコトヲ得ス」の項を廃止することを愛媛県令第一二二号として示達しました。これにより、東讃地方の製塩業者たちが最も不満としていた製塩作業制限の枠が取り除かれ、十州塩田組合会紛議事件は急速に和解の方向に進むことになりました。言論の自由とともに営業の自由を主張していた政党政治家、中野の面目躍如でありました。

3. 香川県分県再置運動

十州塩田問題が解決した翌年三月に愛媛県会では半数改選が行われ、中野は新たに県会議長に選ばれました。元内務省書記官というエリート官僚出身の白根専一知事と対峙できる有力者として期待されたと考えられます。中野の愛媛県会議長として注目すべきことは、何をおいても香川県の再置問題でした。愛媛県会議長の一方で、中野は十州塩田組合協議会への出席や関西鉄道社長という重職を担いながら、分県活動のため関西地方や東京に赴くなど奔走していました。議長でありながら県会欠席が続く中野の姿は、愛媛県側からみれば県会軽視も甚だしいと映っていたことが、当時の愛媛県で発行されていた『海南新聞』の記事から読み取ることができます。

香川県の分県独立運動は、三期にわたって展開されています。第一期は1883年頃から始まり、主唱者は、1879年に創設された高松立志社系の活動家たちで「豫讃分離の檄文」を配布し、分県運動協議のため商法会議所に来会するように呼び掛けました。第一期は立憲改進黨結党以前ということもあり、高松を中心とする東讃、中讃地域の有志が結集していました。

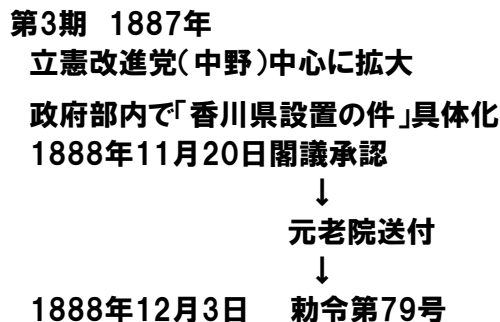
第2期 1884～1886年
◇据置派(西讃)
 自由党
 内務卿に嘆願書奉呈
◇分離派(東讃岐)
 小西甚之助グループ
 →地理・経済・人情
 中野武宮グループ
 →地方税の不権衡、
 地理、人情の不合



図1-17 香川分県の戯画
 (『海南新聞』明治39年9月24日付による)

第二期は1884年に内務卿に対して、愛媛県よりもむしろ以前に合併していた徳島県との合併を希望する願書が奉呈され、愛媛県からの独立の動きが活発になっていった様子が分かります。先ほどの願書を奉呈したグループは、東讃の有力者小西甚之助が率いるグループでした。中野は小西の方法とは異なる考えを持っていました。伊予・阿波への合併はいずれも不利であり、地方税の不権衡、人情の不合、地理の不便の三点を挙げた「主意書附録」を作成し、香川県として分県独立したとしても四国の高知県や徳島県と比べても遜色がないことを主張しました。しかし、この時期の独立運動が実を結ぶことはありませんでした。

第三期は1887年に中野率いる高松の立憲改進黨を中心に分県運動が始まりました。すでに中野は香川県再置運動に奔走していました。実は1887年に香川県再置運動は政府部内で具体化していました。内務大臣山県有朋は総理大臣黒田清隆宛てに「香川県再置ノ件」を閣議に諮るよう要請していました。1888年11月20日の閣議でこれを承認、元老院に回送しました。元老院で同月26日、27日の二日にわたり賛成派と反対派の二派に分かれて議論が白熱しました。採決の結果、賛成派31名、反対派11名で可決されたのです。中野は元老院の決定に持ち込むべく奔走し続けていました。ついに1888年12月3日付勅令第79号により香川県設置が実現しました。



府県活動を足場にした活動は、中野にとって民権運動の一環でありました。そして、1890（明治23）年の第一回帝国議会衆議院議員選挙において、香川県第一区で当選し帝国議会議員として活躍するにあたり、この府県会活動は貴重な経験となったと考えられます。

私は10年ほど前に高松市民大学の講演会で中野武宮を「香川県独立の父」として紹介いたしました。それ以後高松では中野の業績に関心が高まりつつありますけれど、これからも中野に関する顕彰を続けていきたいと思っております。そのためにも小学校における郷土教育において、中野武宮を取り上げ、私が研究を通して明らかにしてきた中野の姿だけでなく、新しい視点から中野像を描く若い世代の研究者の登場に期待したいと考えております。

そこで、香川県設置以外で香川県もしくは高松に対して何を貢献したのだろうかということについて改めて確認してみますと、先ほどご紹介しました通り『香川新報』の創刊があります。高松において言論の自由を実現するための新聞社を設立しました。しかし中野自身は帝国議会議員

に当選したため新聞社の経営には携わることは出来ません。そこで、社長として従弟の小田知周にその経営を任せました。小田は後に高松商業会議所会頭、高松市長として活躍し、1期だけですが帝国議会衆議院議員としても活躍します。中野と共にこの小田知周の顕彰に関しては、高松で研究者が育ってほしいと願っております。

(3)経済活動発展への寄与

- ・『香川新報』の創刊(1889年)
- ・香川県育英会創設(1902年) 理事に選任
- ・百十四国立銀行相談役就任(1912年)
- ・高松電気軌道株式会社役員
- ・高松電燈株式会 社役員

私的利益の追求は考えていない

- ・元藩主松平家相談役
- 披雲閣 迎賓施設の重要性
- 香川・高松近代化のディベロッパー

16

また、中野は香川県、高松市の産業発展にも尽力しました。百十四銀行相談役に就任、高松電気鉄道株式会社の役員や、高松電灯株式会社の役員にも名前を連ねました。高松電気鉄道株式会社専務の北村苟吉、高松電灯株式会社社長牛窪求馬といった時代の先端を走っていた企業の経営者達と中野は子どもや孫の姻戚関係を築き親戚となります。中野だけが香川県の産業発展に深く関わったというより、中野一族が産業発展に大いに寄与しました。まさに近代香川のディベロッパーとしての役割を担っていたのでした。

4. 実業家としての中野武営

今年の7月に一万円札が福沢諭吉から渋沢栄一に代わりますが、中野は渋沢栄一と共に実業界の発展のために尽力しました。渋沢との関係は1887(明治20)年頃から始まります。渋沢が設立した東京商法会議所や東京株式取引所に東京馬車鉄道株式会社の代表として関わりを持ち始めたことから互いの存在を知ることになっていきました。しかし、互いのイメージはあまり良いものではありませんでした。

渋沢は中野のことを「人が悪く言う政治家」と見ておりましたし、中野は渋沢のことを「権勢に媚び高級官吏におもねる御用商人」と見ていたのです。先程の学生のイメージした政治家と実業家のイメージと重なるところがあります。開国後近代化が進みつつあった日本と現在において、政治家や実業家のイメージがほとんど変わらないという、私たちの思い込みによるイメージの固定化はゆるぎないものだということがわかります。

◎渋沢栄一との関係
明治20年頃から
中野→渋沢
「権勢に媚び官僚に阿る
御用商人」
渋沢→中野
「人が悪くいう政治家」



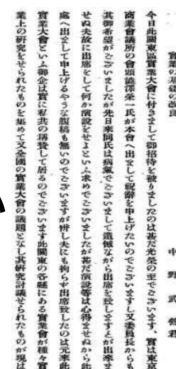
17

渋沢が東京商業会議所会頭を引退する際、後任として中野を推薦しましたが、中野は実業家として、東京商業会議所副会頭、東京株式取引所理事長として着実にその誠実な仕事ぶり、そして自らを誇示することなく日本経済界の発展に尽力しつづけたために、渋沢の信頼を得ていったと私はとらえております。

渋沢の後任として東京商業会議所会頭となりますと、渋沢とは異なる中野の実業立国論を展開するようになります。国策の富国強兵策を頑強にするためもとらえることができる実業立国論では、当時の軍事費を縮小し経済界発展のための予算を拡大すべきであると主張しました。しかし、就任前には日清戦争が、就任後には日露戦争が勃発しましたし、商業会議所は両戦争の戦後経営を牽引していく役割を担ったために、会頭職は重責でした。

・商業会議所会頭としての中野
・渋沢の後継者
・政治家の側面
「実業立国論」を主唱
世界の先進国に引けを取らない
国力を保持する国づくり

18



松方正義蔵相が積極財政を展開する一方で、その後渡辺国武蔵相は緊縮財政を展開するなど、当時の大蔵省の総意としては健全財政主義が貫かれていました。この大蔵省の健全財政主義と中野の実業立国論との関係については、私の目下の課題であります。



明治国家形成のルート

富国強兵・殖産興業

ルート1 健全財政主義

経費節約→友好関係確立→国権拡張→国防充実
→実業奨励→国家経済発達→財政維持

ルート2 渡辺国武の積極政策

公債発行→軍備拡張→国権伸張→富国強兵

21

政府のお金がないということから、渡辺蔵相は税を新設して国民から徴収しようということを行いました。これが国税の営業税新設です。中野は営業税とは何ということをやってくれるのだと「税法改正意見」を発表し、全国の商業会議所に呼びかけて営業税反対運動という全国の商業者、実業者が中心となった大運動を展開します。

帝国議会予算案をめぐる

松方蔵相

歳計剰余金の範囲内に軍備充実・産業振興諸事業総額を圧縮⇒事業の重要度に応じ予算配分

⇕

中野武宮

藩閥政府の積弊除去→予算案1割削減→新規継続事業のほとんど全てを否決

22

税法改正意見は高松での経済談演説会の内容とかなり重複しています。この原案作成者は中野だろうと考えております。その内容は、営業税を国税化するということは、不公平であるので産業の発達を阻害するものだ、実業に携わっている商業者、実業者自らが税法の革新を政府に建議しなければいけないというものでした。政府に対して意見するのは帝国議会議員だけではないのだ、実際に関わる人間が建議することが当然の世の中にならなければならないという中野の主張は、政治家としての経験と実業家としての経験を持っていたからこそその意見だとみています。



国民協会

自由党

「健全財政」積極主義 積極財政主義路線
路線

天皇支持

23

・増税

第1期:〈新設〉国税営業税

登録税

〈制定〉酒造税、葉煙草専売

第2期:地租増徴

第3期:〈増徴〉酒税、醤油税、
葉煙草専売、砂糖消費税

24

営業税の国税化に反対

↓

営業税反対運動

原案「営業税法改正意見」

原案者＝中野武営



「東京商業会議所営業税法廃止意見」

①不良

②不公平

③産業の発達を阻害する

↓

「税法革新の意見」を政府に建議

25

5. 現実主義者としての中野武宮

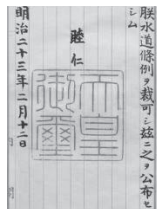
私は中野を現実主義者と捉えています。軍事費の話が出ましたが軍隊は衛生問題と深い関わりがあります。日本でも大日本衛生会が明治初頭から衛生工事の必要性を主張していました。長与専斎という長崎県出身の医師が日本に衛生観念を持ち込んだといわれています。長与は後藤新平の上司にあたる人物で、衛生工事を全国に展開します。その背景にあったのはコレラの流行でした。中野も伝染病予防のために良好な飲料水の確保を期すためにも、高松において早期に上下水道の整備に取り掛かるべきだと主張したのでした。郷東川の伏流水をくみ上げる御殿水源が整備されますが、中野はこの実現を見ずに他界したことは残念だったことでしょう。

(4) 衛生問題

コレラをはじめとする伝染病予防のために、良好な飲料水の確保を期すためにも早急に下水道整備に取りかかるべき



長与専斎



(4) 衛生問題
大日本私立衛生会
「衛生工事」
+
住民「自治精神」
コレラの断続的な流行
明治23～24年
明治28年、明治35年
「高松市民と衛生」

25

6. 国民外交論を主張

アメリカにおける移民は、日清戦争以前までは中国からの移民の方が多かったが、日本が日清戦争及び日露戦争に勝利したことで、日本の存在は国際的な脅威へと変貌していきました。

ゴールドラッシュには日本からも多くの移民が渡米するようになりました。アメリカでは中国からの移民の多さからアメリカ人の雇用が守られなくなるとして、1882年には中国人移民排斥法が成立していました。アメリカ人は中国人も日本人も同じアジアからの移民として、中国人と

3. 民間経済外交の成果とは？

(1)黄禍論問題
1800年代中頃～
アジア人脅威論

三国干渉を正当化
日本＝国際的脅威
日清戦争＋日露戦争



壁画 「ヨーロッパの人々よその聖なる領地を守り抜け」

30

ゴールドラッシュ1848年
大陸横断鉄道建設(1869年開通)
↓ 貴重な労働力/ヨーロッパ系下層労働者
反発
中国人排斥法(1882年)
日露戦争後の不況→日本移民増加
「日米紳士協約」(1907年)
日米外交＝国民外交へ
米西海岸10都市商業会議所へ招待状発送



31

日露戦後経営

東京商業会議所会頭就任
(1905年3月)

示威的平和策を排斥

↓

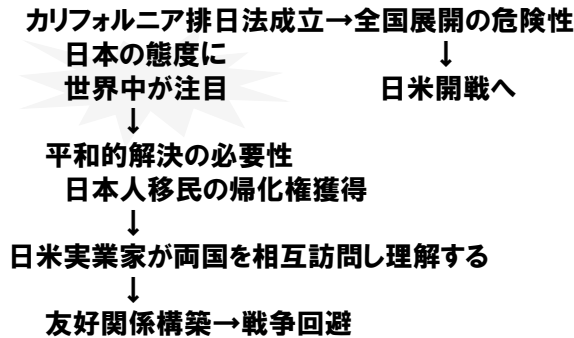
交際の親善経済的関係を提言



第2代会頭
中野 武 宮

同様の対応をしていました。中野は日米の商業会議所の相互訪問を企画・実現させました。実業団の代表には商業会議所会頭であった中野自身ではなく、すでに会頭職を引退していましたが、国際的に知名度が高い渋沢栄一にその地位についてもらおうといった企画成功のための工夫が凝らされていました。

中野はカリフォルニア排日移民法の成立を何としてでも阻止しようと努力しました。中野は、この法が成立するとアメリカ全土において次々と排日移民法が成立し、下手すると日米開戦につながる危険性を感じ取っていたのです。中野は何とかして平和的に解決する方法を模索します。



33

**軍事中心→経済中心へ
政府の財政方針転換を提言
「戦後、我国民の重んずべきことは
商戦なり。直ちに大商戦に着手する
用意が必要である」**

38

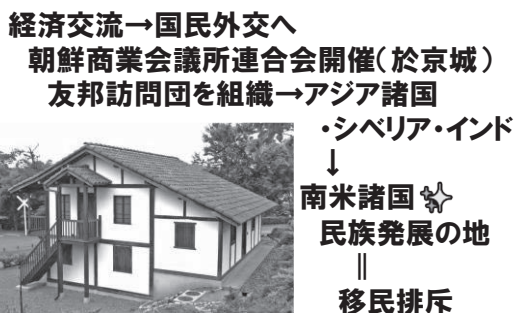
排日移民法が成立するのは、アメリカ人たちが日本について、日本人について知らないからだ、それは日本人も同様だということに中野は気づきます。このように日米両国の相互理解不足が日米両国の産業の発展、貿易の発展を阻害する要因となることをアメリカ西海岸の商業会議所にも伝えました。相互の理解不足を解消するためにも商業会議所を中心とした実業団交流を実現することによって友好関係を構築し、経済交流を継続することが必要のない日米戦争を回避することが出来ると主張しました。

中野にとってこの渡米経験は、生涯では初めての外国訪問でした。アメリカの国力や経済基盤整備を目の当たりにした中野にとって、アメリカの公共精神はこれからの日本、そして日本の実業家たちが見習うべきものとして大きな影響を与えました。そして、アメリカにとって実業振興こそが、国家建設の支柱になっていることが謳われていることを知った中野は、自身の実業立国論において参考にできる部分を取り込み、実業人だけではなく日米両国民が友好的に往復可能な関係の構築に期待しました。

また、中野は自身も鉄道事業に携わっていたことから、アメリカの鉄道事業に注目しました。

工場の中にまで線路を敷設し、材料および製品の輸送に使う工夫などは日本に帰国後参考にしようと詳細な視察を行ったという記録が残っています。

この経済交流はアメリカだけではなく、その後清国や朝鮮においても行われました。中野自身は朝鮮に行きますが、その後シベリア、インドを回り南米までと計画するほどこの交流の拡大に



「ブラジル住宅」 明治村

39

力を入れようとした。しかし、普通選挙権拡大と共に再び政治の世界に引き戻されたため、中野による世界的な経済交流は実現しませんでした。

7. 子どもたちに向けてのメッセージ

私は中野武営研究という人物研究を通して歴史を、政治を、経済を確認しました。人物研究の面白さは研究対象となる人物の人間性やどんな人物だったのかを明らかにする面白さがあります。特に、私のようなこれまで誰も研究対象としてこなかった人物を取り上げる際には、苦勞も大きいですが、人物像が明確になるにつれて研究の成果もはっきりしますので喜びも一入となります。実業家としての業績からだけでなく、政治家としての評価が低いという点からそこに研究の種が埋もれていることに気づけたことをありがたく思っております。

4. 人物研究の面白さ

- ・人間性についての推測
 知遇や勤務先での関係を使って有利に事を
 運ばなかった。→「厳格」「子分を作らない」
- ・官吏としての経験→中立性の維持→調整役
- ・実業界の顔→私利私欲を追及しない
- ・政治家/実業家→産業立国の基盤整備
- ・趣味人として→能(謡)→日本文化を体得

57

更に、中野の人生を振り返ると近代化しつつあった日本社会における社会問題解決に尽力した人物であったことがわかりました。本日お話しした地域問題、産業育成、国際交流、科学技術の発展というように、各分野の問題を人物研究を通してみると一人の人間が横断的に様々な分野の問題に関わりを持ち、その解決に尽力していたことがわかります。人物研究のみならず各分野の学びにも繋がってまいります。

中野の人生→社会課題解決へ尽力した



**地域問題、財政問題、産業育成
国際交流、科学技術**



各分野への学びに繋がる

58

★資料とアイディアは自ら発見しよう！

★史実に正確に！

昔の新聞は行政広報ではない

☆中野武宮以外にも郷土には研究されて

いない人物はいます！

ぜひ取り組んでみましょう！

59

また、学校生活でも研究活動が行われますが、集めた資料、特に歴史的史料によって明らかになった史実は正確に取り扱いたしようということをお願いしたいです。昔の新聞も今の新聞も新聞社が発行しています。新聞社には今も昔も各種政党の影響が反映されていますので、政党の主張や立場を理解することも必要になることを覚えてほしいと思います。

香川県全体を見渡しますとまだまだ研究されていない人物が大勢いらっしゃいます。もちろん高松市の中にもです。ですから、中野以外の人物研究に取り組んでいけるような郷土教育の枠組みの再編などを先生方のご協力のもとで構築していただきたいと願っております。長いお時間を頂戴いたしましてありがとうございます。